

## 第14期足立区社会教育委員会第7回定例会会議録

会 議 名	第14期足立区社会教育委員会第7回定例会会議録
開 催 年 月 日	平成27年9月8日(火)
開 催 場 所	足立区役所本庁舎 南館6階 教育委員会室
開 催 時 間	9時30分開会～10時14分閉会
出 欠 状 況	委員現在数 3名 出席委員数 3名 欠席委員数 0名
出 席 者	千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 氏 日本体育大学名誉教授 成田 國英 氏 東京学芸大学教授 松田 恵示 氏
事 務 局	足立区教育委員会教育長 定野 司 足立区教育委員会子ども家庭部長 伊藤 良久 教育委員会事務局 子ども家庭部 青少年課 管理調整係 出席職員 青少年課長 寺島 光大 青少年課管理調整係長 広瀬 弘紀 青少年課青少年教育担当係長 村上 長彦 青少年課青少年教育担当主査 福井 京子 青少年課管理調整係主事 芝戸 拓矢 青少年課管理調整係主事 渡辺 菜摘
会 議 次 第	別紙のとおり
会 議 に 付 し た 議 題	1 検討テーマについて ① これまでの足立区の社会教育、生涯学習の取組みの成果 ② 足立区の社会教育、生涯学習の課題  2 今後のスケジュールについて

## ★定刻午前9時30分★・会議開会

### 司会:事務局寺島課長

それでは、これより第14期足立区社会教育委員会会議の第7回目の定例会を始めさせていただきます。初めに定野教育長よりご挨拶を申し上げます。

### 定野教育長

本日は、お忙しいところありがとうございます。今日は、この後、区長との懇談を控えております。教育大綱策定に向けて、先生方よりご意見を述べていただきたいと思います。

なお、これに先立ち、総合教育会議でも区社会教育団体の方々にも意見を述べていただき、その中で特に印象に残っているのは、体力、生活習慣の問題、そして、その根底には、やはり家庭教育の問題が多く出ていました。

特に親の問題、やはり家庭の問題になるわけですが、まさに、社会教育委員会会議の中で議論していただいていた内容と合致すると思っております。その点を中心に、ぜひ区長との懇談でお話いただければ幸いに存じます。

以上です。

### 寺島青少年課長

ありがとうございます。

続きまして、明石議長よりご挨拶をお願いします。

### 明石議長

私もよろしくお願ひいたします。

### 寺島青少年課長

11時から区長との意見交換も控えておりますので、勝手ではございますが、本日は45分程度で終了できればと思います。では、本日の検討テーマについて、事務局村上係長から報告いたします。

### 村上青少年教育担当係長

本日、足立区社会教育の方向性について、今まで資料等でご説明したもの、ご意見をいただいたものをもとに、足立区社会教育がどのように進んでいくべきかについて、ご意見をいただきました。

本日ご用意した資料は、検討いただく前提として、どのような成果があったのかを、検討内容の資料でまとめ、課題をお示ししています。これが全てではございませんが、今までの資料、そして、議論の中で幾つかピックアップした資料も用意いたしました。

これまで生涯学習の計画を策定し全区的に推進してきて施設整備が進み、学校の利用環境も、学校開放、放課後子ども教室等進んでおります。さらに、施設での生涯学習事業に

関しても、取り組みの中でかなり定着をしてきています。

区民による社会教育、生涯学習活動も活性化して、多くのグループが様々な活動を展開し、さらに、区民大学講座から自主学習グループができ、NPOとしても様々な学習機会の提供までできるようになりました。また、市民の学習から地域課題の学習、地域活動への展開のなかで、それまでの社会教育館を地域学習センターという名称に改め、一方では大学を誘致して、大学連携による学習機会を提供してきています。

課題は、第二次生涯学習推進計画が終了した後、特に新たな計画が無い状態、そして、家庭教育支援事業が縮小していること、計画も終わったままになっていることです。

社会教育を地域のちから推進部として取り組むためには、社会教育の視点においての地域課題、学校との連携など、その対応は難しいところが出てきていると思います。地域学習という視点において現在の地域学習センターは、指定管理者により色々な事業を展開していますが、趣味的なものがまた増えてきている半面、学習のあり方の転換までには至っていない。人材の体系化、出口の仕組み、学習成果を評価する仕組みができていない、など課題として掲げております。

今日は、明石先生が委員として進められた中央教育審議会の生涯学習分科会の平成25年の議論の整理、そして、松田先生が関わられたことを受けてのワーキンググループの審議など、国の視点あるいは自治体の取り組みなども踏まえながら、ぜひご意見いただければと思っております。

関連して、この中で社会教育主事のあり方も議論されていますが、足立区の現状について参考にしてください。足立区では、平成20年度12名体制でしたが、現状6名、かなり減ってきています。定数としては、地域のちから推進部6、学校教育部1、子ども家庭部4と定数上は11名ですが、実際は青少年課に5、地域のちから推進部スポーツ推進課に1という状態です。ここ数年の間に数名退職した後、補充されていません。足立区のもう1つの課題は、社会教育主事の配置についてではないかと考えます。以上でございます。

## 明石議長

村上係長の説明で、足立の社会教育の課題が少し見えてきたと思います。

私も松田先生も中教審の生涯学習分科会の委員をしており、今7期ですが、6期のキーワードは社会教育行政のネットワーク化です。

簡単に言えば、これまでの社教主事は潰しが利かない。きつい言い方ですが、首長部局に配属しても対応できず、30年ほど前まで教育委員会の中の社会教育だけで良かった。しかし、社会教育の分野は、首長部局が生涯学習という視点で、文化や健康づくりなど、より多様なことを住民が要求してきます。それに対し、学習センターでの学習という視点しか持っていなかった。時代の流れに対して対応できなかったということです。

社会教育行政を教育委員会だけではなくて、他部局との連携や人事についての考慮を含めて実践していくことが大事です。地元の社会教育分野も大事ですが、知事部局、市長・区長部局を含めた視点で社会教育を捉え直すこと、ネットワーク化することを6期で提案いたしました。

そのために、新たな専門性を持った社教主事をどのように育成していくかがポイントです。今の7期も社教主事の育成と同時に、学校支援地域本部やコミュニティスクールがありますが、その提案もいいのですが、それを推進する社会教育行政を担う人材育成についてです。例えば、社教主事は資格がありますが、資格がなくても皆さんを結びつけるコーディネーター、ファシリテーターをいかに育成していくのか、第7期中教審の重要な議論です。

もう1つの部会では、学習成果をどのように地域に還元するか。硬い言葉で言えば、学習成果の活用です。地域学習センターができて、これまでの社会教育は、教養や知識を深めて豊かな人生を送りましょうと、これは否定できないが、ややもするとクローズというか、それで終わってしまいがちです。

それもいいですが、少し社会とかかわる生きがいもあるのでは、という視点です。少しの地域貢献、学習した成果を地域に返しましょうということ。今、厚労省は自治会長や民生・児童委員、非行少年を更正する保護司などのなり手がなく大変困っています。具体的に申し上げたいことは、青少年相談員、補導員など、せっかく学習した成果を、関連する色々な場面で、少しでもかかわっていただきたいということです。

これを認証するのか、資格化するのか、それとも委嘱するのかという事を考えております。足立区で学習した成果を、どのように地域に還元するかが大事だと思います。

## 定野教育長

教育大綱の3つの柱の成人期、正にその議論がここの会議です。

ですから、学ぶだけじゃなくて、その経験を社会に還元する。今、先生おっしゃるように、それをどうやって具現化、具体化するのか、今、具体的に自治会長と民生委員のお話は確かなことです。

単に、我々還元するとは書いてみたものの、どうやって還元するのか、本日の意見交換で話題になればいいと思います。まさに考え方は間違いなく具体的ではないというのは、ここに書かずとも、行政側に責任があると言っていた方がいいと思います。

確かに今、自治会長やPTAのなり手探しに苦勞しています。先日、ある席でPTAに入りたくないと言われてきました。PTAは、みんな入ると思っていました。強制ではありませんが今そういう時代です。町会自治会に入る方も少なく、加入率は、今6割以下です。このことについても、ご意見いただければありがたいです。

## 明石議長

1つには、ここには出ていない足立区がコミュニティスクールに対してどういうスタンスをお持ちか。足立区は、コミュニティスクールの発祥地です。文科省では、小中局がコミュニティスクール、学校支援地域本部は生涯学習施策がやっている。しかし今、この2つの局が一緒に「チーム学校」として、今、中教審において合同会議を開いています。これは初めてです。

お互いがどう歩み寄って地域創生というか、学校を通してまちを元気にしていくのか。従来の学校観だけではまちは元気になりませんよ、と生涯学習、社会教育の視点からの学

校支援地域本部をつくり、そこで学校支援をしながら、また、子どもたちが成長したら、それを地域に還元できる。キーワードは、「チーム学校」という名前で足立を元気にしていく必要があります。

### 定野教育長

足立区では、開かれた学校づくり協議会を全校に設置し、職員を派遣していろいろな情報が上がってきています。どちらかというと学校支援です。先生のお話は、学校が元気になって地域をどうするか、ということですが、足立区は、まだそこまではたどり着いていません。

地域の方が何か学校にいいことをやろう、というのは幾つも出てきていますが、学校から外に、地域まで元気にするところまでは至っていない。一部には、そのような取り組みもあると思いますが、全てうまくいっているわけではありません。

学校がまちを元気にする、という発想は今までには無く、地域の方に学校を支えてください、と今までずっと言ってきました。そうすると、地域の方がいろいろなこと、学校のことを考えていただいているのは間違いないので、それを生きがいに持っていてくださる方はそれでもいいのですが、そこからの次のステップです。

### 村上青少年教育担当係長

かつての非行対策では、地域が学校にどのように力を貸すのかについて実践してきました。

### 定野教育長

その次のステップです。学校でまちを元気にするお話も、意見交換できれば幸いです。

### 伊藤子ども家庭部長

今までは、地域の核は町会自治会であったりしていますが、学校が新しいコミュニティの核になっていく、ということです。

### 明石議長

日本語に訳せば、地域社会の学校です。コミュニティスクールは、日本語に訳せば地域社会学校です。コミュニティという言葉は、何か新しく感じますが地域です。

### 定野教育長

そういった意味では、開かれた学校づくり協議会はニュートラルなので、いろいろできると思います。地域社会学校の中で、この取り組みをどうするのか、と考えられます。

コミュニティスクールについては、法律上色々な制約があり、人事権や学校教育課程の方針など法律にかかわることについては、この段階の議論では除きたいと思います。

## 明石議長

縛りあるからしょうがない。ハードルが高くてみんな引いてしまいます。

## 定野教育長

今の開かれた学校づくり協議会をどうしていきべきか、いう議論もしたいと思います。

## 明石議長

開かれた地域協議会があって、その後、学校支援、地域コミュニティがあつていいのですが、それが無い。

## 定野教育長

地域の機能としてはあると考えています。地域の方もよく集まってくれる。そういった点では、法律云々ではなく地域コミュニティを先行させたい。法律などは、後からついてくるのではと思います。

## 明石議長

例えば栄養教諭と食改善相談員をドッキングさせて、家庭の朝ご飯をどうやって良くしていくか。ひとり住まいのおじいちゃん、おばあちゃんの朝食と昼食をどうやって支援するか、なども考えられます。

食生活改善相談員も高齢化しています。学校の栄養教諭の配置には予算化され、相当優秀な方です。こうした人材をうまく活用できればと思います。

## 定野教育長

家庭学習に関係する講座は、いろいろ実施していると思いますが、学校の栄養士が地域に、ということは余り聞いたことがありません。確かに栄養士は、毎日の給食をつくっていますから、その延長線で子どもだけではなくて、家庭に帰ったらどのような食事をしているのか、そこから先の改善にむけたアプローチができれば素晴らしいと思います。

開かれた学校づくり協議会であれば、いろいろな人を呼ぶことや地域の方とも連携がとれます。学校の先生や栄養士は、確かに忙しいので地域との関わりは厳しいと思います。

## 明石議長

例えば、千葉県バージョンのラジオ体操があります。千葉の花は菜の花で「なのはな体操」で、つくったのは高校の体育の先生です。昭和 48 年の若潮国体のときにつくられました。

長野県の社教主事が考えたのが「ピンピンコロリ体操」です。言いたいことは、社教主事、教員というのは、知的財産をお持ちだから、それを地域に返すような制度づけを社会教育行政がやる必要があると思います。

小中教や学校教育部は、地域に対し学校を応援してくださいと持っていきますが、学校

の知的財産、文化財産を地域に戻す制度づけが必要と感じています。

### 定野教育長

例えば、2020年東京オリンピックパラリンピックのレガシーで、何を残すのかというのは大きな課題です。英語教育もひとつですが、体操は、考えていなかったのので、例えば足立体操などを考えてもいいと思います。足立区では桜体操かチューリップ体操でしょうか。

### 明石議長

足立の花はチューリップ。チューリップの体操は、幼児が興味を示します。

### 定野教育長

2020年に向けて、保育園や幼稚園、小学校の子どもたちは覚えている。今度またこのような話が何十年かたつと出てくるという話です。チューリップ体操知っていると。

レガシーについては、いろいろ考えてもなかなかアイデアがないので、そういう無形文化財というか、そういうのもいいと思います。形に残るものだけではなく、人の心に残る体操です。

### 明石議長

体操だけではなく、チューリップ踊りもあります。ヨーロッパのオランダはチューリップ。オランダのキャンプ地は足立区でやるとか。チューリップでつながる。

### 定野教育長

一校一国運動。要するに呼んで応援しようはやっています。それをオランダと、ということですか。

### 明石議長

そうです。ぜひオランダと折衝して。市町村が動いているところがあります。高崎市は、ベルギーです。

### 定野教育長

エントリー制です。オランダは、ハードルが高そうです。

### 明石議長

キーワードを決めて社会教育で区民運動を起こしていくのはどうか。

### 定野教育長

5年あれば何かできそうです。

**明石議長**

足立には、チューリップの球根はありますか。

**伊藤子ども家庭部長**

球根はあまりないです。

**明石議長**

赤ちゃんが生まれた際、チューリップの球根はあげてありますか。

**伊藤子ども家庭部長**

そういったことはやっておりません。

**明石議長**

区の木と花、苗木と球根は区からプレゼントしたらいい。それで、区は子育てを応援しますということを発信する。

**伊藤子ども家庭部長**

花いっぱいコンクールでは、チューリップを中心にやっています。

**明石議長**

ぜひ赤ちゃんが生まれた時は、花の球根と木の苗木をあげてください。木は何ですか。

**定野教育長**

桜です。

**明石議長**

桜の苗木、いいですね。桜の苗木とチューリップの球根をワンセットで。

**定野教育長**

私は、ブルーベリーを渡したことがあります。

キャラクターと何かかかわるものとしてやっています。

**伊藤子ども家庭部長**

足立区は土地が狭く、苗木をもらっても植えるところがなかなかありません。

**明石議長**

家庭は難しいので、江戸川とか隅田川にあるのですね。

## 伊藤子ども家庭部長

その案件は、友好自治体に足立の森をつくって苗木を植えるというものがあります。

## 明石議長

足立に飛び地をつくれば良いと思います。

## 定野教育長

桜の木は今、オーナー制度で荒川の河川敷に植えて千本桜構想をやっています。非常に人気です。

## 明石議長

荒川の河川敷からスカイツリーが見えます。例えば足立の植えた桜の並木沿いにベンチを置く。銀婚式、金婚式を迎えた円満な夫婦がベンチをつくってあげる。そこに座るとカップルが誕生するベンチ構想というのも面白いと思います。

銀婚式、金婚式を迎えた方が足立に寄附をする。そこに座って愛を語ってくださいと。そして、ベンチからはスカイツリーと花火も見られる。千本桜を活用した方が良い。

## 定野教育長

チューリップの球根であればできるかもしれません。

## 明石議長

そのように行政が家庭教育のサポートをする。そして足立への愛着心、足立を好きになってもらう。やはり社会教育の原点は、足立を知っていますか、好きになりましたか、足立をよくしていきましょうという、このワン、ツー、スリーをやるのが、私は社会教育行政だと思っています。

## 定野教育長

そしてもう一つは体操。足立ではビュー坊体操をつくったことがあります。

保母さんたちに集ってもらい、つくったビュー坊体操です。ビューティフル・ウィンドウズ運動もやっていますから、ビューティフル体操をつくろうとやっていたが、とてもおもしろい。まだ保育園ではやってもらっていると思います。そして今度はチューリップ体操。オリンピックのレガシーとしてはいいと思います。

## 伊藤子ども家庭部長

オリンピックに向けて、全区的に普及させられれば良いですね。

## 明石議長

今の幼児、小学生の体幹はものすごく弱くなりました。私は今、体幹遊びを勧めています。

す。保育所や小学校で体幹遊びをやりながら、柔軟な体をつくっていく。体操は、体幹遊びになる。体幹、腰骨や背を鍛える。要するに健康づくり、ヘルシーになるということで、あくまでも〇〇体操というのは仕掛けです。狙いは体幹のやわらかいお子さん、けがをしない子どもを育成することです。だから幼児期からやらないといけません。今、本当に、頭から転んで手をつかないという幼児がふえていますから。

## 明石議長

そして、やはり宿泊などの集団生活でリズムをつくってあげないといけません。

## 伊藤子ども家庭部長

それと、家庭にいて親とだけ接するのではなく、第三の大人と話すというのは重要だと思います。やはりモデルとなるようなお兄さん、お姉さんであったり、おじさんだったり、そういう社会的おじ・お婆のような存在も非常に重要という感想を持ちました。

## 村上青少年教育担当係長

今年の夏、8月初めにジュニアリーダーの宿泊キャンプを御殿場で行いました。そして、8月末に、キャンプ生活のビデオを見たり自分の立てた目標がどれくらいできたかなどの振り返りの会議を行いました。保護者のアンケートの中で、宿泊キャンプから帰ってきて子どもが変わった、積極的に家のことをやろうとしたりなど、すごくいいほうに変わったという記載が多くありました。2泊3日の子どもたちだけが主役の生活ですが、それでもやはりかなり効果があると思います。

## 明石議長

兵庫県は、「トライアル・ウィーク」という中学校2年生が1週間、職場体験するという事業を行っています。この事業は約3億6,000万円かけています。教師は忙しいから、中学校区の社長さんや店長さんなど仕事を持つ方に来てもらい、先生方が子どもの希望の職場で、こっち2人いいよ、こっち3人でいいよとか、それを市長が「トライアル・ウィーク推進委員」として委嘱します。すると、社会の人が動いてくれる。教師が電話して保育所や職場を探すのはもうできない。地域のことを知っている、そういうことに興味のある人に委嘱をする。例えば福岡は非行少年の問題、青少年愛護と守る委員として、まずコンビニとゲームセンターの店長を委嘱します。

青少年愛護委員をつくり、店長さんを集めて年3回研修会を開いてあげる。そして、子どもに上から目線で叱ってはいけない。とにかく、朝、ゲームセンターに来たら「学校に行け」と言わないで「どうしたの」などまず聞いてあげてラポール関係をつくり、それで話を聞いてあげるということを実践する。そういう1つの第三者的な人の委嘱を社会教育行政でできるかもしれないです。

## 定野教育長

足立区でも、いろいろなところで職場体験を2～3日やっています。先日、私がある学校へ行った際、たまたまタクシーがガソリンスタンドに入っていくのを見た時のことです。ガソリンスタンドで車を磨いているのが中学生で「今、職場体験をやっているところです」と言いました。話を聞いてみると、やはり最初はお客さんだけれども、3日目、4日目になると自分から自発的に動くことができるようになります。残念なのは、そこで終わってしまうということ。もう少し長い時間を取りたいと思いますが。

## 明石議長

せっかく覚えたときにやめてしまう。

## 定野教育長

そうです。調子が出てきて、自分から自発的に何か仕事をしようというときに、終わってしまう。ですので、今のお話は、そのガソリンスタンドの店長に委嘱するということですね。

## 明石議長

そういう役割やポジションをいただけると、ちょっぴり社会に貢献しようかと思うのではないのでしょうか。

## 定野教育長

あるとき校長に電話がありました。何かというと、動物病院に職場体験に行った子どもがいて、そこで動物の手術になり、卒倒、貧血で倒れたというのです。そしてお父さんが迎えに来たという話でしたがそれもいい経験です。昔は5日間でしたが、カリキュラムが非常に厳しいので短縮したようです。やはり1週間ぐらいあるといいです。

## 伊藤子ども家庭部長

これから区長との懇談がありますが、教育大綱にも皆さんのご意見を反映させたいと考えております。

## 明石議長

足立の社会教育行政で何をやればいいのかと、様々な提案をもらっていますが、ほかにご意見などありましたらお聞かせ願います。

## 定野教育長

特に成人期は、自ら学ぶとともにその経験を社会に還元する、意欲を育てる、ここまでは書くのですが、実際どのように、というところまでは。今、明石先生からご意見をいただきましたが、民生委員、自治会の役員、あるいは保護司のなり手もない、そのようなこ

とを具体的にどうなのか。はっきり言えば、きちんと明示する必要があるのではと、教育大綱に対しても非常にいいご提言をいただいだと思っております。この後、そのようなご意見をいただければありがたいと思います。

#### 松田委員

ピントが合っていない状態ですが、足立の様子1つに、世代を超えて足立に住む方が多いとか、幼児期から成人期というのが流入して交じり合って、さまざまな教育が生まれている面と、それ以上に循環していく場、まじり合いの面が非常に強いと思っています。そういう意味で足立の特徴が出る気がしますし、大綱にも位置づけられるような1つのものになればと思います。

#### 松田委員

世代間をつなぐというと一般的になりますけれども、むしろ循環型の世代間の交流関係、伝達関係が足立は非常に強みでもあるし、弱みでもあると少し思います。

#### 定野教育長

どちらかと言うと、貧困の連鎖、負の連鎖をプラスの正の連鎖にしていくということです。今、連鎖を断ち切るという話になっていますので、プラスの連鎖にしていくことが課題でしょうか。

#### 伊藤子ども家庭部長

足立区の特徴の一つに東京のベッドタウンと言われることが多く、それとともに人口動態の流入、流出も多い土地柄です。

#### 松田委員

コアになっている部分がはっきりしていて、その周りを取り囲む部分は、確かに流動性がありますが、このコアになっている部分が、実は足立の特色をつくっているように感じています。

#### 定野教育長

低所得者にとって住みやすいとされています。それを負の連鎖になってしまっているところをプラスにする。そのために、具体的に何をやっていけばいいのか。要は、手薄の部分について明石先生よりご意見を伺い、特に乳幼児期の食や健康のことではないかと。この時期に対策を講じないと、青少年期、成人期に影響がでてくる、とご指摘をいただきました。これも重要な対策と思っています。

## 明石議長

松田先生の話を受けますと、例えば子ども会連は、6年生まで子ども会に入って、中学生になったらジュニアリーダーになりましょう。これは1つのプラスの連鎖、要するに、成長スタイルを用意してあげる。例えば、青年会議所。日本で一番長い青年、39歳まで青年です。終わった後は、ライオンズクラブに入って、違う視点で社会にかかわっていきましようなどです。要するに、正の連鎖は、あるステージが終わったら次のステージがあります、という成長スタイル、社会貢献スタイルとかいうのを提示してあげるとわかりやすい。

例えば、PTAの役員をした方が入る、PCAという団体があります。パワーを持った方がPCAに加入して、地域の活動をしますよと。今、中教審では、コーディネーターの方が一番うまくいくのは、PTA役員やった方が地域コーディネーターになってくれると全体がわかってくる。これもプラスの連鎖ではないでしょうか。

## 定野教育長

確かに今、PTAの方が青少年委員や地区対の中心を担っていただくなど、つながりができていますが、そこが源になっていると思います。

## 村上青少年教育担当係長

民生委員や児童委員も同じだと思います。ただ、それは結果としてできているという、そこを仕組みとしてつくっていくことです。

## 伊藤子ども家庭部長

ジュニアリーダーの後は、どうなっていますか。

## 村上青少年教育担当係長

ジュニアリーダーのクラブ、指導者の組織をつくっています。

## 定野教育長

そのような正の連鎖を2つか3つ例を挙げてみると、負の連鎖を断ち切るだけじゃなく、プラスに転じていくことは、素晴らしいことです。

## 明石議長

プラスの連鎖は、家庭の食事で言うと、多分あの家は長寿の家とか、遺伝もあるかもしれないけれども食生活が影響していると思います。足立の長寿の地域、健康寿命が豊かな地域など、その食生活を探して、それを次に伝えていけばプラスの連鎖になります。

## 成田副議長

誰もが子どもを支える主役であり、教育大綱はこれからを生き、将来社会の支え手となる、これを足立区民の方が、確かにそうだと認識すること。家庭教育は、社会教育は、という発想に立っていただくことが必要と思います。

ある区の教育目標の中で、度々申し上げていることは、グローバル社会で活躍するための国際感覚、みずから考え解決に向けて行動する力を身につける育成が重要である、との認識に立ち、具体的目標を定めて推進していくことです。

これについても、1行、2行、世界的に大きく変わりつつある中で、足立区では、という発想があってもいいと思います。

## 明石議長

時間が来ました。これで今回の社会教育委員会議は終わります。

## 事務局寺島課長

ありがとうございます。

もう1回、年内に会議を予定してございます。次回まで少し時間が空きますので、またメール等で連絡をさせていただきます。

この後、8階の区長室にお移りいただきます。どうぞよろしく申し上げます。

**午前10時14分・会議閉会**